

議会では常任委員会ごとに町の課題を解決すべく、テーマを決めて、3年ぶりに行政視察を行いました。その内容を報告します。



山梨県 北杜市で 移住定住について学ぶ

北杜市は、将来にわたり安心して暮らす事の出来る計画の強化に取り組んでいます。そこで「第2次八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン」計画を立て、定住人口の確保と活性化を図っていました。具体的には、※「メタバース」での婚活イベントを全国で初めて開催し、8組が成立しました。このイベントは、長野県の富士見町、原村と連携し開催されたもので、3市町村は八ヶ岳定住自立圏を構成し、移住・定住人口の確保に取り組んでいました。

※メタバースとは、インターネット上の仮想空間です。
(目黒克博議員)



メタバース
婚活の
パンフレット



株式会社オキサイド(山梨県北杜市)

会津坂下町出身の古川社長の(株)オキサイドを訪問しました。

「光の時代として結晶と光で世の中を幸せにする」という信念のもと、大きくされた会社です。

町への工場誘致が望まれます。

(山口 享議員)

総務産業建設
常任委員会
2/7 ~ 2/9



神奈川県 開成町で ZEB 認証庁舎について学ぶ

神奈川県開成町ではZEB認証庁舎の取り組みについて、視察しました。

「ZEB」とは建物内において生産消費する(電気)エネルギーの収支を0にすることを目指した建物で、主に再生可能エネルギーの活用により実現します。

開成町では日本で初めてこのZEB認定を庁舎で取得しており、庁舎のランニングコストの抑制についておおいに参考となりました。
(赤城大地議員)



特徴のある明るい
窓口ロビー

埼玉県 北本市で 庁舎の維持を学ぶ

【新庁舎の概要】

・地上 4階建

・(実質)3階建て・4階機械室

・庁舎職員399名(臨時含む)

・総工費:36億3,782万円

・庁舎分:31億1,950万円

・併設施設:児童館・防災倉庫棟

・光熱水道費対策としてガス、電

気を併用

・雨水を利用

(地下タンクに貯水し、トイレや散水などに利用)

【新庁舎の維持管理】

・シンブルが一番

・メンテナナンスを

する際、管理の

しやすい素材を

選ぶ

(横山智代議員)



ここを
活かす

○人口減少対策は、広域の観点も重要

○新庁舎建設は、再生可能エネルギーの活用や、ランニングコストの抑制も重要

(佐藤宗太委員長)

東京都世田谷区立桜丘中学校で 校則のない学校について学ぶ



職員室前の廊下に設置された学習スペース

この表示がある場所でのみスマホの利用が可能

(青木美貴子議員)

当初は「校則のない学校」として歩き始めましたが、現在では自由の中でも駄目な事はダメだという認識が必要と、少しずつ見直しがされています。

スマホの使用も、拒否するのではなく、「スマホを使って良い時間と場所はどこだよ」と示しており、そういう意識改革は必要だと感じました。

挨拶をする・時間を守る・授業を大切にすることのグッドマナーと共に、多様性の尊重と受容・活かしあいの精神で人権教育を重んじ、校則のなくなる環境づくりを試みています。

支援する人の意識改革をはじめ、ホームページなどを活用して家庭・地域社会との連携・協力を図り、信頼関係を深める指導をしていました。そういった指導方針もあってか、区外からの入学希望も多いそうです。

挨拶をする・時間を守る・授業を大切にすることのグッドマナーと共に、多様性の尊重と受容・活かしあいの精神で人権教育を重んじ、校則のなくなる環境づくりを試みています。

当初は「校則のない学校」として歩き始めましたが、現在では自由の中でも駄目な事はダメだという認識が必要と、少しずつ見直しがされています。

スマホの使用も、拒否するのではなく、「スマホを使って良い時間と場所はどこだよ」と示しており、そういう意識改革は必要だと感じました。

社会福祉法人清瀬わかば会で 障がい者の居場所づくりについて学ぶ

成人してから自立し、自分らしく、生まれ育った町で人生を全うできる施設となっていました。

わが町の施策にも活かしたいものだと感想でした。

(小畑博司議員)



障がいのある方が共同生活をしているシェアハウス

東京都清瀬市の総合的障がい者支援施設を運営する「清瀬わかば会」を視察しました。設立当初から支援を続けてきた清瀬市議会の議長にも出迎えていただき、施設内は、職員の方と入所者の元気な声が響いていました。

小学校の保護者による活動から始まり、50年余りの歴史のある施設で、法人化してから、はや23年になるこのことです。児童生徒の居場所づくりや作業所は勿論、立派なシェアハウスが3棟あり、1棟に男女5〜6人が生活しています。

東京都清瀬市の総合的障がい者支援施設を運営する「清瀬わかば会」を視察しました。設立当初から支援を続けてきた清瀬市議会の議長にも出迎えていただき、施設内は、職員の方と入所者の元気な声が響いていました。

文教厚生
常任委員会
1/30 ~ 2/1



ここを
活かす

- 多様性の尊重と「意識改革」が重要
- 誰一人取り残さない共生社会のための『自立』支援が重要
- 指導者の確保・保護者の負担軽減、「枠組み」の整備が重要

(蓮沼文明委員長)

茨城県 水戸市で 部活動地域移行について学ぶ

水戸市では、5部活動（サッカー、テニス、剣道、バスケットボール、卓球）を地域クラブに移行し、実践研究をしています。

導入前と比較し、教員は精神的負担の軽減につながっており、生徒は専門的指導を受けられ、指導者と顧問の連携により部活動が主体的な活動となったといった成果が上がったとのこと。

一方で、受益者負担になる事への保護者の理解や、実施主体の確保、指導者の条件、研修、予算、場所の確保の問題もあります。

子どもの環境改善が主目的で、教員の負担軽減のためではないとの説明が印象的でした。

(渡部正司議員)





導入に向け検討が進んでいる中学校の部活動地域移行。

変わりつつある部活動について紹介します。

今回は、3月まで坂下中学校柔道部で顧問をしていた、外井先生にお話をうかがいました。



坂下中学校 柔道部

坂下中学校柔道部は、男子12名、女子4名が練習に汗を流しています。

部員は小学生の頃から坂下スポ少や、喜多方スポ少で経験を積んできた生徒がほとんどですが、中学校入学後に柔道を始めて頑張っている生徒もいます。それぞれが自分たちの技能・体力面と精神面の目標を設定し、それを達成すべく地道に練習に励んでいます。

顧問の真壁教諭による自分の柔道経験に基づく情熱あふれる指導と共に、外部コーチの物江雄介氏が平日の放課後のみならず休日にも指導に当たってくれています。

練習は準備運動や補強運動に始まり、寝技の稽古、立ち技の稽古へと進んでいきます。真壁教諭の指導をさらに自分たちで考えながら反復していくのが練習の特徴です。苦しい時こそ一つにまとめ、力を出し切る事が坂下中柔道部の大きな目標でもあります。



また、保護者の方々の大会や合同練習会への引率や応援、そして道場に足を運び、部員の姿を見守って下さる温かさが部員たちの励みになっていると常々感じています。



外井 隆先生

広報広聴特別委員会
委員長 小畑 博司
副委員長 横山 智代
委員 目黒 克博
委員 蓮沼 文博
委員 物江 政博

春の暖かい光と風の中で、花木や樹木の新しい芽吹きを目にする、寒さの厳しかった冬期間の記憶も少しずつ和らいでいくような気がします。

さて、令和5年度がスタートし、一ヶ月が経過しようとしています。三年前の春に発生した新型コロナウイルスも来月から第5類へ引き下げられ、今後ますます「誰ひとり取り残さない」地域共生社会、継続できるまちづくりが求められます。希望に溢れたまちづくり実現のために、町議会は今後も皆さんの声を聞き、共に歩んでまいります。

(蓮沼 文明)

編集後記